

第 59 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会（部会③）

開催記録

1 開催概要

- 日 時：令和7年9月3日（水）10：00 ～ 12：00
- 場 所：TKP ガーデンシティ PREMIUM 品川高輪口 ホール4C
- 出席者：

表 出席者一覧

委員長	・ 谷川 章雄氏（早稲田大学名誉教授）
委員	・ 老川 慶喜氏（立教大学名誉教授） ・ 古関 潤一氏（東京大学名誉教授・ライト工業株式会社 R&D センター テクニカルオフィサー） 欠席 小野田 滋氏（鉄道総合技術研究所 アドバイザー）
オブザーバー	・ 文化庁文化財第二課 史跡部門 ・ 港区教育委員会事務局 教育推進部 図書文化財課 ・ 港区 街づくり支援部 ・ 東京都 教育庁 地域教育支援部 管理課 ・ 鉄道博物館 学芸部 ・ JR 東日本コンサルタンツ株式会社 ・ 東日本旅客鉄道株式会社 構造技術センター ・ 東日本旅客鉄道株式会社 グループ経営戦略本部 品川・大規模プロジェクト推進部門 ・ 東日本旅客鉄道株式会社 建設工事事部
事務局 東日本旅客鉄道(株)	・ 東日本旅客鉄道株式会社 グループ経営戦略本部 品川・大規模プロジェクト推進部門 ・ 東日本旅客鉄道株式会社 建設工事事部
サポート	・ パシフィックコンサルタンツ株式会社

■ 当日配付資料

1) 議事録確認

- ・ 次第
- ・ 資料1：第58回委員会（8/6）全体会議事録案
- ・ 資料2：第58回委員会（8/6）部会②議事録案
- ・ 資料3：第58回委員会（8/6）部会③議事録案

2) 部会③

- ・ 次第
- ・ 資料1：調査結果について

2 議事要旨

2.1 議事録確認

(1) 開会

- 第 59 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会を開会する。(事務局)

(2) 議事録確認

1) 第 58 回委員会(8/6)全体会の議事録確認

- 修正指摘なし。(委員一同)

2) 第 58 回委員会(8/6)部会②の議事録確認

- 修正指摘なし。(委員一同)

3) 第 58 回委員会(8/6)部会③の議事録確認

- 修正指摘なし。(委員一同)

2.2 部会③

(1) 開会

- 第 59 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会の部会③を開会する。(委員長)

(2) 調査結果について

- 資料 1 の仮橋脚部について説明する。(港区)

＜説明概要＞

- 仮橋脚部 KP16-3、KP17-2 は薩摩台場の範囲内と推定される位置であり、これまでの薩摩台場範囲内の調査結果と同様の傾向がみられた。
- 薩摩台場の土層を確認したところ、江戸時代の陶器片を確認したが、支障物等は確認されなかった。
- 仮橋脚部 KP24-4、KP26-4 も同様の傾向であるが、多少上部の方で近現代の削平を受けている。
- KP26-4 からは過去の委員会で報告した田町駅ホーム構築時の杭と思われる松杭が 4 本検出された。ライナーに支障する杭は切り取って取り上げており、工事に支障する 2 本は取り上げて施工を進めたいということを JR より受けている。
- 仮橋脚部、山留部の調査は大分進み、薩摩台場の盛土の様相がかなり明確に分かってき

た。今後の調査において大きな知見になる。(委員長)

- KP24-4 では攪乱が見られ、KP26-4 で田町駅ホームの松杭が発見された。松杭は従前の判断の通り抜き取って施工するという判断でよいと考える。仮橋脚の施工を可と考えてよいだろう。(委員長)

← 異議なし。(委員一同)

→ 報告された4箇所の仮橋脚の施工を可とする。(委員長)

- 資料1の雑魚場架道橋付近の調査報告を説明する。(港区)

＜説明概要＞

- ボーリング No.9、10、12 の報告とその範囲の仮土留の施工の判断をいただきたい。
- 高輪築堤の範囲と想定する No.9、10 では、貝片、礫混じり層など1～4街区で確認された高輪築堤跡の盛土層の特徴と類似した結果となった。
- 薩摩台場の範囲と想定する No.12 では、薩摩台場の特徴となるシルト層と粘土層の互層が確認され、近世遺物も含まれていた。
- いずれのボーリングからも支障物や石、木質は確認されなかった。
- 当該部分は雑魚場架道橋（第5橋梁）付近の掘削を伴う躯体構築範囲であり、高輪築堤が薩摩台場と接続する部分になる。(委員長)
- 前回報告で調査箇所 23～24 の間のボーリング結果で海側石垣が確認されなかったため仮土留の施工を可とした。(委員長)
- 今回も同様に調査箇所 24～25 の間でボーリングを行い、海側石垣が確認されなかったことから、仮土留の施工は可と考えてよいだろう。(委員長)
- ← 異議なし。(委員一同)
- 今回の承認に感謝する。今後も委員会で報告しながら事業を進める。(JR)
- ただし調査箇所 25 は薩摩台場の裏込めと考えられる石が多く確認されているので記録保存が必要と考えている。(委員長)
- 事業者の協力を得ながら試掘調査を行った結果、かなり正確に高輪築堤と薩摩台場の位置が分かってきた。現在は石積みが発見された箇所を点で周知の埋蔵文化財包蔵地に登録しているが、調査結果を踏まえて面的な範囲とするかどうか港区で検討してもらいたい。(東京都)

(3) その他

＜全体会・部会①・部会②・部会③終了後＞

- 最後に文化財行政からコメントをもらう。(委員長)

- ← 5・6街区の委員見解については文化庁でも確認していきたい。また、第8橋梁北横仕切堤については遺構を残していただき感謝する。(文化庁)
- ← 全体会の見解は次回以降に JR からの具体的な話があると思うので、引き続きお願いしたい。部会①は遺構に配慮いただき感謝する。(東京都)
- ← 部会①について、京急の遺構への対応に感謝する。併せて JR の設計変更に感謝する。全体会については、これまでの議論を踏まえた委員見解に対する JR の回答を注視したい。(港区)
- 部会①の連立事業については大変な苦労があったと思う。JR の範囲についても遺構を残したままの施工を進めている。結果として第8橋梁北横仕切堤が全体的に残されることになったのでよかったと思う。(JR)

(4) 閉会

- 次回委員会は 10 月 1 日(水) 10 時 00 分より、会場は JR 東日本現地会議室での開催を予定する。本日はこれで閉会とする。(事務局)

3 議事録

3.1 議事録確認

(1) 開会

- (事務局) 第 59 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会を開会する。
- ・ 資料確認
 - ・ オンラインの案内
 - ・ 次第説明

(2) 議事録確認

- (事務局) 3つの議事録について修正等の指摘はあるか。修正等があれば委員会終了までに連絡をいただきたい。
- (事務局) 意見がなければ、議事録確認を終了する。

3.2 部会③

(1) 開会

- (委員長) 次第に沿って進める。

(2) 調査結果について

- (港区) 資料 1 について説明する。仮橋脚部の調査の報告と雑魚場架道橋付近の調査の報告である。仮橋脚部は、KP16-3、KP17-2、KP24-4、KP26-4 であり、同時に行ったボーリング調査と併せて報告する。仮橋脚部 KP16-3、KP17-2 はいずれも薩摩台場の範囲内と推定される位置であり、これまでの薩摩台場範囲内の調査結果と同様の傾向がみられた。薩摩台場の土層を確認したが、支障物等は確認されなかった。ボーリング内では江戸時代の陶器片が 1 点確認された。仮橋脚部 KP24-4、KP26-4 も同様の傾向であるが、多少上部の方で近現代の削平を受けている。KP26-4 からは過去の委員会で報告した田町駅ホーム構築時の杭と思われる松杭が 4 本検出された。ライナーに支障する杭は切り取って取り上げており、工事上支障する 2 本は取り上げて施工を進めたいということを JR より報告を受けている。
- (委員長) 質問、意見はあるか。
- (委員長) 仮橋脚部、山留部の調査は大分進み、薩摩台場の盛土の様相がかなり明確に分かってきた。今後の調査において大きな知見になる。KP16-

3、KP17-2 は従前の認識レベルと同じ高さ、土質である。KP24-4 では攪乱が見られ、KP26-4 で田町駅ホームの松杭が発見された。松杭は従前の判断の通り、抜き取って施工するという判断でよいと考える。仮橋脚の施工を可と考えてよいだろう。

(委員一同)

異議なし。

(委員長)

報告された4箇所の仮橋脚の施工を可とする。

(港区)

続いて雑魚場架道橋付近の調査報告を行う。今回はボーリング No.9、10、12 の報告を踏まえ、その周辺範囲の仮土留の施工の判断をいただきたい。高輪築堤の範囲と想定する No.9、10 では、1～4街区で確認された高輪築堤跡の盛土層の特徴と類似した結果となり、貝片、礫混じり層等が主な特徴となる。薩摩台場の範囲と想定される No.12 では、薩摩台場の特徴となるシルト層と粘土層の互層が確認され、近世遺物も含まれていた。いずれのボーリングからも支障物や石質、木質は確認されなかった。

(委員長)

質問、意見はあるか。

(委員長)

当該部分は雑魚場架道橋（第5橋梁）付近の掘削を伴う躯体構築範囲であり、高輪築堤が薩摩台場と接続する部分になる。前回報告で調査箇所 23～24 の間のボーリング結果で海側石垣が確認されなかったため仮土留の施工を可とした。今回も同様に調査箇所 24～25 の間でボーリングを行い、海側石垣が確認されなかったことから、当該範囲の仮土留の施工は可と考えてよいだろう。ただし、調査箇所 25 は薩摩台場の裏込めと考えられる石が多く確認されているので記録保存が必要と考えている。

(委員一同)

異議なし。

(委員長)

今後は海側の方の確認に移っていく。

(東京都)

事業者の協力を得ながら試掘調査を行った結果、かなり正確に高輪築堤と薩摩台場の位置が分かってきた。現在は石積みが発見された箇所を点で周知の埋蔵文化財包蔵地に登載しているが、これらの調査結果を踏まえて、面的な範囲とするかどうか港区で検討してもらいたい。

(JR)

今回の承認に感謝する。今後も委員会で報告をしながら事業を進めていきたい。

(委員長)

他に何かなければ、次に進める。

(3) その他

(委員長)

その他は何かあるか。

(委員長)

特になければ部会③を閉会する。

<全体会・部会①・部会②・部会③終了後>

(委員長)

最後に文化財行政からコメントをもらう。

- (文化庁) 5・6街区の委員見解については文化庁でも確認していきたい。また、第8橋梁北横仕切堤については遺構を残していただき感謝する。
- (東京都) 全体会の見解は次回以降に JR からの具体的な話があると思うので、引き続きお願いしたい。部会①は遺構に配慮いただき感謝する。
- (港区) 部会①について、京急の遺構への対応に感謝する。併せて、JR の設計変更に感謝する。全体会については、これまでの議論を踏まえた委員見解に対する JR の回答を注視したい。
- (JR) 部会①の連立事業については大変な苦労があったと思う。JR の範囲についても遺構を残したままの施工を進めている。結果として、第8橋梁北横仕切堤が全体的に残されることになったのでよかったと思う。

(4) 閉会

- (事務局) 次回の委員会は、10月1日(水)10時00分より、会場はJR東日本現地会議室を予定している。お忙しい中貴重なご意見をありがとうございました。閉会とする。

以 上